

大会宣言

今日、世界のたたかっている労働者の合言葉は「新自由主義反対」です。多くの労働者たちは、首切り、低賃金、労働強化、非正規労働者の増大が、ひとえに新自由主義政策によるものだということを把握しつつ、その根源にむかって闘いをすすめています。

空洞化した日本経済の矛盾は社会不安と混乱を産み出し、3万人を超す自殺者と激増する殺人、凶悪犯罪と並行して企業による組織犯罪が多発し尊い多くの人命を殺傷しています。

われわれも、この状況をつくりだす「規制緩和、市場原理」を押しすすめる新自由主義政策の本質をしっかりとつかみ、バラバラの抵抗闘争を全労働者・国民の統一闘争に発展させる展望をもたなければなりません。

5年前、自らの自由意志を装って「退職届」を書かせるという、50歳退職再雇用という名の首切り攻撃に反対し、N関労を立ち上げたわれわれは、右往左往しながらも、多くの先輩や他労組の仲間に支えられて歩いてきました。

本年は茨城に支部を勝ち取り、春闘では初めてのストライキを貫徹することができました。そしてこの火は山梨にも点火されました。組織のこの前進を全組合員で確認し、全国に発信していきたいと思います。

しかしながら、戦後の労働運動を高揚させ労働者の連帯をつくりだしていった職場闘争はいま、資本の繰り出す縦割り攻撃である「成果主義賃金」により、一人ひとりが分断され苦難を強いられていることが否定できない一般的な情勢ともいえます。さらに、N T Tでいえば、退職届を書かなかった本体組合員には遠距離通勤や「みせしめ配転」を強行し、職場からの反撃をなりふりかまわず押さえつけている、といえます。

われわれはこの現実から逃げることはできません。その意味でも課せられた課題は「中期方針」の早期確立です。全組合員の英知を結集し歴史的作業を成功させましょう。

右、宣言する。

2006年8月27日

東日本N T T関連合同労働組合第6回定期大会